

公開研究セミナー 開催のお知らせ

「転換期の学校と教師－授業の画一化にどう対応するか」

日本学校教育学会研究推進委員会では「転換期の学校教育」を3年間にわたる課題研究テーマとして掲げ、これまで検討してきました。1期目の昨年度は、「転換期の学校と子ども一学びをどう保障するか」というタイトルのもと、転換期の学校における多様な子どもたちの学びの保障のあり方について検討しました。本年度は、「転換期の学校と教師－授業の画一化にどう対応するか」というタイトルのとおり、教師に焦点をあてます。もとより学習指導要領や検定教科書といった国家による統制があるなか、とくに近年では、教員育成指標、教育（授業）スタンダードの制定など、地域行政・学校レベルでも授業を画一化しようとする動きが強まっています。こうした状況下での、教師独自の授業実践、自律的な学級経営の可能性について探っていきたいと思います。

以下のとおり、公開研究セミナーを2回開催します。各ご登壇者よりご発表頂き議論を深め、7月の研究大会（課題研究）へとつなげます。国家、地方行政、学校と各レベルでみられる画一化の動きのなかで教師の自律的な教育実践の糸口はどこにあるのか、活発な議論を行いたいと考えています。皆様には、ぜひご参加下さい。

第1回公開研究セミナー ※学会会員以外の方も参加頂けます

日時：5月26日（日）13：30～15：20

実施方法：Zoomによるオンライン開催／参加費無料（定員60名※先着）

登壇者：子安潤（愛知教育大学名誉教授）「授業を画一化させるスタンダードからの自律」

コメンテーター：飯窪真也（一般社団法人教育環境デザイン研究所主任研究員）

第2回公開研究セミナー ※学会会員以外の方も参加頂けます

日時：6月2日（日）10：30～12：10

実施方法：Zoomによるオンライン開催／参加費無料（定員60名※先着）

登壇者：中村映子（公立小中学校スクールカウンセラー）「包摂の学級経営－若手教師は現場で主体的に育っていく－」

中澤純一（東京未来大学講師）「多文化教育の授業開発と実践－多様性の尊重と社会正義の実現を目指して－」

《ご参考》 日本学校教育学会第38回研究大会 ※詳細は、学会HPをご参照下さい

課題研究「転換期の学校と教師－授業の画一化にどう対応するか」

日時：2024年7月27日（土）9：00～10：30

場所：白百合女子大学（東京都調布市緑ヶ丘1-25）

登壇者：子安潤（愛知教育大学）、中村映子（公立小中学校スクールカウンセラー）、中澤純一（東京未来大学）

➤ お申込み方法：下記のURL、またはQRコードから、公開研究セミナー（第1回、第2回）それぞれについてお申し込み下さい（5月19日（日）締め切り）。お申込みいただいた方には、公開研究会前日までに、Zoom詳細をご送付します。 参加申し込みフォーム⇒ <https://forms.gle/RQnvHKC4u71Bx8Jx5>

➤ お問い合わせ：研究推進委員会 委員/幹事 馬場訓子（岡山大学） nori-baba@okayama-u.ac.jp
委員長 金井香里（武蔵大学） kanaik@cc.musashi.ac.jp

